

鹿児島大学農学部における成績評価に関するガイドラインについて

令和3年7月21日

農学部教授会承認

農学部における成績評価については、原則として、下記の「成績評価に関するガイドライン」（令和3年3月3日全学教務委員会決定）によるものとし、令和3年10月1日から全学生に適用する。

ただし、下記②の3に関して、卒業研究科目、実験・実習科目、演習科目に係るガイドラインについては、2頁以降のとおり定めることとし、令和4年4月1日から適用する。

記

成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90点未満から80点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80点未満から70点以上）	基本的な目標を達成している
可（70点未満から60点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である。

- ②
1. 秀が評価対象者の20%以内に収まることを目安とする。
 2. ただし、履修登録者数が20人未満の科目については、1の限りではない。
 3. 実験・実習科目、演習科目、卒業研究科目、研究科開設科目などについては、各々の特性を踏まえて部局ごとにガイドラインを定める。

卒業研究科目の成績評価に関するガイドライン（農業生産科学科）

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 卒業研究科目の成績評価は、「卒業研究発表会における発表」と「卒業論文の提出」の両方を行った者を対象として、以下の 5 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる（10 点）。
 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、（指導教員と相談しながら）研究計画を立案し、意欲的に研究を実施できる（10 点）。
 3. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察することができる（10 点）。
 4. 研究成果を効果的なプレゼンテーションとしてまとめ、卒業研究発表会において発表できる（20 点）。
 5. 研究成果を卒業論文としてまとめることができる（50 点）。

各項目の成績評価の基準

- ・指導教員は、1-3 の評価項目を各 10 点満点として採点する。
- ・「卒業研究発表会での発表」により項目 4（20 点）を認定する^{注1}。
- ・「期日までの卒業論文の提出」により項目 5（50 点）を認定する^{注2}。

^{注1} 病気や忌引き等のやむを得ない事情により発表会で発表しなかった者は、研究室またはコース単位で別途発表会を設ける等の措置を講じる。発表会の欠席事由がやむを得ない事情であるか否かは所属のコース会議で判断する。特段の事情により、別途発表会を設けることが適わない場合には、所属コース会議の判断により項目 4 を減点した上で成績評価の対象者とする。

^{注2} 卒業論文の提出期日ならびに提出方法については、所属のコース会議で決定し別途周知する。

卒業研究科目の成績評価に関するガイドライン
(食料生命科学科 食品機能科学コース)

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀 (90 点以上)	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優 (80 点以上から 90 点未満)	基本的な目標を十分に達成している
良 (70 点以上から 80 点未満)	基本的な目標を達成している
可 (60 点以上から 70 点未満)	基本的な目標を最低限達成している
不可 (60 点未満)	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 評価結果（履修生と秀の数）は、公表する。

- ③ 卒業研究科目の成績評価は、以下の 5 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(10 点)
 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、指導教員と相談しながら研究計画を立案し、意欲的に研究を実施できる。(15 点)
 3. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察することができる。(15 点)
 4. 卒業研究成果を発表し、卒業論文としてまとめることができる。(60 点)

各項目の成績評価の基準

- ・指導教員は、1－4 の各評価項目を採点する。

卒業研究科目の成績評価に関するガイドライン
(食料生命科学科 食環境制御科学コース)

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀 (90 点以上)	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優 (90 点未満から 80 点以上)	基本的な目標を十分に達成している
良 (80 点未満から 70 点以上)	基本的な目標を達成している
可 (70 点未満から 60 点以上)	基本的な目標を最低限達成している
不可 (60 点未満)	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 評価結果（履修生と秀の数）は、公表する。

- ③ 卒業研究科目の成績評価は、以下の 3 項目に定める基準で評価する。

1. 研究課題に関するこれまでの研究成果を調査し、問題点を抽出して研究計画を立案し、実験・調査を実施し、結果を考察してまとめることができる。(40 点)
2. 研究成果の論理的なプレゼンテーションができる。(20 点)
3. 研究成果を卒業論文としてまとめることができる。(40 点)

卒業研究科目の成績評価に関するガイドライン
(食料生命科学科 焼酎発酵・微生物科学コース)

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀 (90 点以上)	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優 (90 点未満から 80 点以上)	基本的な目標を十分に達成している
良 (80 点未満から 70 点以上)	基本的な目標を達成している
可 (70 点未満から 60 点以上)	基本的な目標を最低限達成している
不可 (60 点未満)	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 評価結果（履修生と秀の数）は、公表する。
- ③ 卒業研究科目の成績評価は、以下の 5 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる (10 点)。
 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、(指導教員と相談しながら) 研究計画を立案し、意欲的に研究を実施できる (10 点)。
 3. 材料と方法、結果、考察などを適切に記録し、指導教員に報告することができる (10 点)。
 4. 卒業論文発表会で、研究成果をわかりやすく発表できる (20 点)。
 5. 研究成果を卒業論文としてまとめることができる (50 点)。

注意事項

- ・履修生は、卒業論文発表会で発表すること。
- ・履修生は、期日までに、指導教員の修正指示に対応した卒業論文を、指導教員に提出すること（期日は別途周知）。

卒業研究科目の成績評価に関するガイドライン（農林環境科学科）

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。

- ③ 卒業研究科目の成績評価は、以下の 5 項目を下記に定める基準で評定する。

指導教員の採点(70 点)

- ・研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる（10 点）。
- ・課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、（指導教員と相談しながら）研究計画を立案し、意欲的に研究を実施できる（10 点）。
- ・研究の各プロセス を適切に記録し、結果を考察することができる（10 点）。
- ・研究成果を効果的な プレゼンテーションとしてまとめ、発表できる（卒業研究発表）（10 点）。
- ・研究成果を卒業論文としてまとめることができる（30 点）。

コース教員（3 人）による採点

- ・研究成果を他の専門にも理解できるプレゼンテーションとしてまとめ、発表できる（卒業研究発表）（10 点×3）。

卒業プロジェクトの成績評価に関するガイドライン(国際食料資源学特別コース)

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀 (90 点以上)	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優 (90 点未満から 80 点以上)	基本的な目標を十分に達成している
良 (80 点未満から 70 点以上)	基本的な目標を達成している
可 (70 点未満から 60 点以上)	基本的な目標を最低限達成している
不可 (60 点未満)	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 卒業プロジェクトの成績評価は、以下の 5 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 卒業プロジェクトのテーマに沿った背景，課題，目的が明示された計画を立案，作成する（10 点）。
 2. 卒業プロジェクト実施期間を通じ記録(データ，日記・日報など)の収集，作成を行う。（10 点）。
 - 3.活動を達成度，残された課題とその要因などを基に分析し，1.の計画と対比して考察し成果をまとめる（10 点）。
 4. 成果を効果的なプレゼンテーションとしてまとめ、発表できる（卒業プロジェクト成果発表/卒業研究発表）（10 点）。
 5. 成果をレポート/卒業論文としてまとめる（60 点）。

各項目の成績評価の基準

- ・②に示した評価は，口頭発表およびレポート/卒業論文の提出が行われた者/行われる見込みの者を対象とする。
- ・指導教員は、1-3 の評価項目を各 10 点満点として採点する。
- ・「卒業研究発表会での発表」により項目 4（10 点）を認定する。
- ・「期日までの卒業論文の提出」により項目 5（60 点）を認定する（期日は別途周知）。

農業生産科学科：実験・実習・演習・欧文購読科目等成績評価ガイドライン一覧表

学科共通			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
1	後期	341000000115	インターンシップ研修（農業生産） 井尻 大地
2	後期	340000000008	農業生産科学農場実習 大島 一郎
応用植物科学			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
3	前期	341000000019	植物生産学実験Ⅲ 香西 直子
4	後期	341000000051	植物生産実地研修 坂巻 祥孝
5	前期	341000000105	暖地農業実習 朴 炳宰
6	後期	341000000063	地域実習 香西 直子
7	前期	341000000018	植物生産学実験Ⅱ 香西 直子
8	後期	341000000058	植物生産学応用実験 香西 直子
9	後期	341000000015	植物生産学実験Ⅰ 坂巻 祥孝
10	後期	341000000081	農業生産学実習 朴 炳宰
11	前期	349750116433	農場実習Ⅱ 朴 炳宰
12	後期	349750116413	農場実習Ⅰ 朴 炳宰
13	後期	340252263001	農場実習Ⅲ 遠城 道雄
14	後期	340000000136	農場実習（応用植物科学） 遠城 道雄
15	前期	341000000059	欧文講読（応用植物科学） 香西 直子
畜産科学			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
16	前期	341000000069	家畜飼養管理学演習Ⅰ 大島 一郎
17	後期	341000000070	家畜飼養管理学演習Ⅱ 大島 一郎
18	前期	349852160337	畜産化学実験 後藤 貴文
19	後期	342000000002	畜産生化学実験 井尻 大地
20	前期	349952235301	栄養生化学実験 井尻 大地
21	後期	349852160236	情報処理演習 岡本 新
22	後期	341000000071	畜産物加工実習 後藤 貴文
23	前期	341000000097	食品製造実習 後藤 貴文
	後期	341000000097	食品製造実習 後藤 貴文
24	前期	349752165422	家畜人工繁殖学実習 大久津 昌治
25	後期	341000000068	家畜育種・繁殖学実験 大久津 昌治
26	前期	349852416423	牧場実習 大島 一郎
27	前期	341221000001	家畜解剖学演習 松元 光春
28	前期	341000000098	欧文講読（畜産科学） 後藤 貴文
食料農業経済学			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
29	前期	341000000087	農村課題解決プログラム 李 哉ヒョン
30	前期	341000000099	欧文講読（食料農業経済） 田代 正一
国際食料資源学			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
31	後期	341000000024	フィールド実習 遠城 道雄

インターンシップ研修に関するガイドライン

- ① インターンシップ研修^{注1}の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

^{注1} 本ガイドラインは、インターンシップ研修（農業生産科学科）とインターンシップ研修（食料生命科学科食品機能科学コース）に共通のガイドラインとする。

- ② インターンシップ研修の成績評価は、事前講習及び事後講習へ出席した者を対象として、以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. インターンシップ研修先での受講態度^{注2}（30 点）

インターンシップ研修先の担当者に以下の 3 項目について所見をつけてもらい、所見を参考にして、インターンシップ担当教員が受講態度を採点する。

評価項目	標準+ α	標準	標準- α	評価可能な最低ライン	評価しない
意欲	インターンシップに対してかなり意欲的に参加した。また、事前に研修先やその業界の調査を十分に行っていた。	インターンシップ研修先での研修に対して意欲的に参加した。また、事前に研修先やその業界の調査を行っていた。	インターンシップ研修先での研修に対して参加した。また、事前に研修先の調査を行っていた。	インターンシップ研修先での研修に対して参加した。	インターンシップ研修先での研修に対して参加しなかった。
興味関心	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に

	対する興味関心が非常に高い。また、積極的に質問して、研修先や業界に関する情報を収拾する意欲が非常に高い。	対する興味関心が高い。また、研修先や業界に関する情報収拾する姿勢が感じられた。	対する興味関心がある。また、研修先や業界に関する質問を行った。	対する興味関心がある。	対する興味関心が感じられなかった。
理解	研修内容に対する理解度が非常に高い。研修先やその業界に関する理解度も非常に高い。	研修内容を十分に理解している。研修先やその業界に関して十分に理解度している。	研修内容を理解している。研修先やその業界に関して理解している。	研修内容に対する理解はしている。	研修内容に対する理解が不十分である。

注2 意欲（10点）、興味関心（10点）、理解（10点）で採点する。

2. レポート（60点）の評価^{注3}

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の3つの評価項目を採点する。

評価項目	標準+α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
研修先での実習内容	研修先およびその業界全体に関する調査研究が十分であり、わかりやすく紹介されている。研修先での研究内容がわかりやすく説明されている。	研修先に関する調査研究を行い、説明されている。研修先での研究内容が説明されている。	研修先での研究内容が説明されている。	研修先での研究内容が説明されていない。
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。

結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論は唐突である。
--------	---------------------	--------------	-------------------	-----------

注3 問題の設定（20点）、論旨の展開（20点）、結論の導き方（20点）で採点する。

3. 事後研修（10点）の評価^{注4}

事後研修への受講態度を以下の3項目で評価する。

評価項目	評価する	評価しない
グループワーク	事後研修でのグループワークに意欲的・積極的に参加した。	事後研修でのグループワークに意欲的・積極的に参加しなかった。
質疑応答	事後研修で意欲的・積極的に質疑応答を行った。	事後研修で質疑応答しなかった。

注4 グループワーク（5点）、質疑応答（5点）で採点する。

農業生産科学農場実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農業生産科学農場実習の成績評価は、以下の 4 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 水稻、果樹、花卉、野菜、熱帯亜熱帯植物、家畜の基本的な栽培、飼養管理の流れが説明できる。
 2. 教職員が実演した水稻、果樹、花卉、野菜、熱帯亜熱帯植物、家畜の栽培、飼養管理に求められる基本レベルの技術を模倣できる。
 3. 教職員が説明、実演した農業器具、機械類の基本操作が模倣できる。
 4. 生物生産の多面性や動植物の有機的な繋がりを理解し、説明できる。

【上記各項目の成績評価のための細目設定】

具体的な実技・理解度評価細目は以下の理由により各施設の担当教員が設定する。

- A. 当該実習は学内農場（水稻、花卉、野菜）、唐湊果樹園（果樹）、指宿植物試験場（熱帯亜熱帯植物）、入来牧場（家畜）を各実習地 1～2 名の教員で担当しており、対応分野が広範囲にわたる。各分野毎に必要な基本技術、基本知識が異なるため、全施設（分野）共通の技術、知識細目での評価が困難である。
- B. 当該実習では 4 施設のうち前期 1 施設、後期 1 施設を選択受講するため受講生によって習得する実技・理解度の内容が異なり、受講生共通の実技、知識細目での評価が困難である。

【各項目の成績評価の基準】

- ・各施設担当の教員は、上記 1-4 の評価項目を実習到達度 50 点（実技テスト 25 点、ミニッツペーパー 25 点）およびレポート 50 点（実習後の振り返りレポート）により計 100 点満点として採点する。（各施設の担当教員が設定する技術、知識の評価基準は各分野での基本レベルとして統一する。）
- ・前後期（各 1 回）実習終了後、前後期の成績（各 100 点満点）を平均したものを農業生産科学農場実習の評点として認定する。

植物生産学実験Ⅲの成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 植物生産学実験Ⅲの成績評価は、以下の項目を満たす者を対象としてコース教員が採点する。
1. 各回のレポートをまとめ期日までに提出した者（期日は別途周知）

備考

実験担当教員で成績分布の偏りを最小にするための取り組みを設ける必要がある。

植物生産実地研修の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 植物生産実地研修の成績評価は、以下の項目を満たす者を対象としてコース教員が採点する。
1. 各回の研修における成果を「実地研修レポート」としてまとめ期日までに提出した者（期日は別途周知）

備考

年度で成績分布の偏りを最小にするための取り組みを設ける必要がある。

暖地農業実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 暖地農業実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 暖地農業実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（各実習地における実習カードとレポート）について以下の項目を下記に定める基準で評定し、受講施設の平均値を最終評価とする。

1. 実習カードの評価基準

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習の目的	行われた実習の目的がすべて記録されている。	行われた実習の目的の一部が記録されていない。	行われた実習の目的が記録されていない。
実習の内容	行われた実習の内容がすべて記録されている。	行われた実習の内容の一部が記録されていない。	行われた実習の内容が記録されていない。

^{注1} 実習の目的（20 点）、実習の内容（50 点）

2. 実習レポートの評価基準^{注2}

評価項目 ^{注2}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習レポート	出題された課題に則って、レポートが書かれている。	出題された課題に則ってレポートが書かれているが、内容が不十分である。	出題された課題に則ってレポートが書かれていない。

^{注2} 実習レポート（30 点）

地域実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 地域実習の成績評価は、以下 2 項目を満たす者を対象としてコース教員が採点する。
1. 成果を「地域実習レポート」としてまとめ期日までに提出した者（期日は別途周知）
 2. 成果を「地域実習報告会」において発表した者

備考

実習場所による成績分布の偏りを最小にするための取り組みを設ける必要がある。

植物生産学実験Ⅱの成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 植物生産学実験Ⅱの成績評価は、以下の項目を満たす者を対象としてコース教員が採点する。
1. 各回のレポートをまとめ期日までに提出した者（期日は別途周知）

備考

実験担当教員で成績分布の偏りを最小にするための取り組みを設ける必要がある。

植物生産学応用実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 植物生産学応用実験の成績評価は、各研究分野で定め、指導教員が採点する。

備考

研究分野で成績分布の偏りを最小にするための取り組みを設ける必要がある。

植物生産学実験Ⅰの成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 植物生産学実験Ⅰの成績評価は、以下の項目を満たす者を対象としてコース教員が採点する。
1. 各回のレポートをまとめ期日までに提出した者（期日は別途周知）

備考

実験担当教員で成績分布の偏りを最小にするための取り組みを設ける必要がある。

農業生産学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農業生産学実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（実習ノートの作成）について以下の項目を下記に定める基準で評定する。

実験ノートの記載要領は、事前に manaba を利用して案内する。

1. 各施設の実習回 1 回につき、実習ノートに記載する「実際の実習内容」の項として採点する。実習内容の記録は、実習のポイント（栽培管理・技術、道具、注意事項など）や実習の手順などが適切に記録されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習ノート	行われた実習の内容が実習ノートの記載要項に則って、記録されている。	行われた実習の内容の一部が記録されていない。	行われた実習の内容が記録されていない。

^{注1} 実技の習得状況（70 点）

2. 各施設の実習回 1 回につき、実習ノートに記載する「実習の予想」と「実習の所見」の項として採点する。実習予想は予想される実習の意義、手順、道具などが適切に記載されているかを評価する。実習所見は事前予想と実際の実習との比較や考察などが適切に記載されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習の予想	予想される実習の意義、手順、道具などが記載されている。	予想される実習の意義、手順、道具などの一部が記載されていない。	予想される実習の意義、手順、道具などが記載されていない。
実習の所見	事前予想と実際の実習との比較	事前予想と実際の実習との比較	事前予想と実際の実習との比較

	や考察が記載されている。	や考察の一部が記載されていない。	や考察が記載されていない。
--	--------------	------------------	---------------

注1 実習の予想（15点）、実習の所見（15点）

3. 各施設担当の教員は、「実際の実習内容」の項を70点、「実習の予想と所見」の項を30点により各回100点満点として採点する。

農場実習Ⅱの成績評価に関するガイドライン

- ① 農場実習Ⅱの成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90点未満から80点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80点未満から70点以上）	基本的な目標を達成している
可（70点未満から60点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農場実習Ⅱの成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（実習ノート、自主栽培ノートおよび接ぎ木レポートの作成）について以下の項目を下記に定める基準で評定する。

実験ノートの記載要領は、事前に manaba を利用して案内する。

1. 実験ノートの評価基準

- 各施設の実習回1回につき、実習ノートに記載する「実際の実習内容」の項として採点する。実習内容の記録は、実習のポイント（栽培管理・技術、道具、注意事項など）や実習の手順などが適切に記録されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習ノート	行われた実習の内容が実習ノートの記載要項に則って、記録されている。	行われた実習の内容の一部が記録されていない。	行われた実習の内容が記録されていない。

^{注1} 実技の習得状況（50点）

- 各施設の実習回1回につき、実習ノートに記載する「実習の予想」と「実習の所見」の項として採点する。実習予想は予想される実習の意義、手順、道具などが適切に記載されているかを評価する。実習所見は事前予想と実際の実習との比較や考察などが適切に記載されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習の予想	予想される実習の意義、手順、	予想される実習の意義、手順、道	予想される実習の意義、手順、道

	道具などが記載されている。	具などの一部が記載されていない。	具などが記載されていない。
実習の所見	事前予想と実際の実習との比較や考察が記載されている。	事前予想と実際の実習との比較や考察の一部が記載されていない。	事前予想と実際の実習との比較や考察が記載されていない。

注1 実習の予想（10点）、実習の所見（10点）

- 各施設担当の教員は、「実際の実習内容」の項を 50 点、「実習の予想と所見」の項を 20 点により各回 70 点満点として採点する。

2. 自主栽培ノートおよび接ぎ木レポートの評価基準

- 自主栽培ノートは、自主栽培の各栽培品目について芽かき、誘引、追肥、害虫防除、収穫など適正な栽培管理や記録されているかを評価する。
- 接ぎ木レポートは、最初に行う接ぎ木実習から実習最終日まで接ぎ木の生育の予想、管理、調査、所見などについて適正に記録されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能の最低ライン	評価しない
自主栽培ノート	自主栽培の各栽培品目について、栽培管理がすべて記録されている。	自主栽培の各栽培品目について、栽培管理の一部が記録されていない。	自主栽培の各栽培品目について、栽培管理の一部が記録されていない。
接ぎ木レポート	提案された接ぎ木の実習内容がすべて記録されている。	提案された接ぎ木の実習内容の一部が記録されていない。	提案された接ぎ木の実習内容が記録されていない。

注1 自主栽培ノート（30点）、接ぎ木レポート（30点）

- 自主栽培ノートおよび接ぎ木レポートは各 30 点と評価し、その平均点を 30 点満点として評価する。

農場実習Ⅰの成績評価に関するガイドライン

- ① 農場実習Ⅰの成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農場実習Ⅰの成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（実習ノートの作成）について以下の項目を下記に定める基準で評定する。

実験ノートの記載要領は、事前に manaba を利用して案内する。

1. 各施設の実習回 1 回につき、実習ノートに記載する「実際の実習内容」の項として採点する。実習内容の記録は、実習のポイント（栽培管理・技術、道具、注意事項など）や実習の手順などが適切に記録されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習ノート	行われた実習の内容が実習ノートの記載要項に則って、記録されている。	行われた実習の内容の一部が記録されていない。	行われた実習の内容が記録されていない。

^{注1} 実技の習得状況（70 点）

2. 各施設の実習回 1 回につき、実習ノートに記載する「実習の予想」と「実習の所見」の項として採点する。実習予想は予想される実習の意義、手順、道具などが適切に記載されているかを評価する。実習所見は事前予想と実際の実習との比較や考察などが適切に記載されているかを評価する。

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習の予想	予想される実習の意義、手順、道具などが記載されている。	予想される実習の意義、手順、道具などの一部が記載されていない。	予想される実習の意義、手順、道具などが記載されていない。

		い。	
実習の所見	事前予想と実際 の実習との比較 や考察が記載さ れている。	事前予想と実際 の実習との比較 や考察の一部が 記載されていな い。	事前予想と実際 の実習との比較 や考察が記載さ れていない。

注¹ 実習の予想（15点）、実習の所見（15点）

3. 各施設担当の教員は、「実際の実習内容」の項を 70 点、「実習の予想と所見」の項を 30 点により各回 100 点満点として採点する。

農場実習Ⅲの成績評価に関するガイドライン

- ① 農場実習Ⅲの成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農場実習Ⅲの成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（全体でのイネ収量・品質調査レポート（1 回）と所属教育研究分野（5 回）でのレポート）について以下の項目を下記に定める基準で評定し、6 回分の平均値を最終評価とする。

1. イネ収量・品質調査レポートの評価基準

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
収量構成要素	収量構成要素が理解できており、その測定の手法を完全に習得している。	収量構成要素が理解できているが、手法についての理解が不十分である。	収量構成要素が理解できない。
収量予想	収量構成要素から収量の予想ができる。	収量の予想が完全に理解できていない。	収量予想ができない。
玄米の品質 ^{注3}	玄米の観察から品質の違いを正確に説明できる。	玄米の観察から品質の違いは理解できるか、説明が不十分である。	玄米の品質の違いを説明できない。

^{注1} 収量構成要素（50 点）、収量予想（30 点）、玄米の品質（20 点）

2. 各教員研究分野でのレポートの評価基準^{注2}

評価項目 ^{注2}	標準	評価可能の最低ライン	評価しない
実習の意義	実習の意義が明確に理解できており、それらがすべてと記載されている。	実習の意義が理解できているが、記載が不十分である。	実習の意義が理解できておらず、記載もない。
実習の具体的内容	行った実習の内容が正確に記載されている。	行った実習の内容の記載が不十分である。	行った実習の内容の記載が間違っているか記載がない。
行った実習に関連する事項 ^{注3}	行った実習に関連する事項について、すべてがまとめられている。	行った実習に関連する事項について、まとめられているが、内容が不十分である。	行った実習に関連する事項がまとめられていない。

^{注2} 実習の意義（20点）、実習の具体的内容（20点）、行った実習に関連する事項（60点）

^{注3} 詳細は manaba で連絡する

農場実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 農場実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農場実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（各実習地における実習カードとレポート）について以下の項目を下記に定める基準で評定し、受講施設の平均値を最終評価とする。

1. 実習カードの評価基準

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能の最低ライン	評価しない
実習の目的	行われた実習の目的がすべて記録されている。	行われた実習の目的の一部が記録されていない。	行われた実習の目的が記録されていない。
実習の内容	行われた実習の内容がすべて記録されている。	行われた実習の内容の一部が記録されていない。	行われた実習の内容が記録されていない。

^{注1} 実習の目的（15 点）、実習の内容（15 点）

2. 実習レポートの評価基準^{注2}

評価項目 ^{注2}	標準	評価可能の最低ライン	評価しない
実習レポート	提案された課題に則って、レポートが書かれている。	提案された課題に則ってレポートが書かれているが、内容が不十分である。	提案された課題に則ってレポートが書かれていない。

^{注2} 実習レポート（70 点）

欧文講読科目（応用植物科学）の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 欧文講読科目の成績評価は、以下の 4 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 科学、農学、ならびに応用植物科学に関連する英語の代表的な用語を理解し、その内容を説明できる（25 点）
 2. 科学、農学、ならびに応用植物科学に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる（25 点）。
 3. 科学、農学、ならびに応用植物科学に関連する簡単な文章を英語で書くことができる（25 点）。
 4. 科学、農学、ならびに応用植物科学に関連する講義・発表などに対して活発な質疑応答ができる（25 点）。

各項目の成績評価の基準

・指導教員は、1-4 の評価項目を各 25 点満点として採点する。なお、各項目の評価は秀相当(90%以上)、優相当(90%未満から 80%以上)、良相当(80%未満から 70%以上)、可（70%未満から 60%以上）、不可（60%未満）で判定する。

家畜飼養管理学演習Ⅰの成績評価に関するガイドライン

- ① 家畜飼養管理学演習Ⅰの成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 家畜飼養管理学演習Ⅰの成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（家畜の飼養管理や牧草サイレージに関する基礎知識の習得状況をレポートで評価する）について下記に定める基準で評定する。

【レポートの評価基準】

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、manaba を利用して案内する。

評価項目 ^{注1}	標準+α	標準	評価ライン	評価しない
問題の設定	背景がわかりやすく述べられ、問題設定が明確にされている。	背景の説明と問題設定が適切である。	背景と問題設定が記述されている。	背景、問題設定のいずれかが記述されていない。
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。
結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論が唐突である。
書式 ^{注2}	書式に不備はなく、見やすいように工夫がされている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

注1 問題の設定（30 点）、論旨の展開（30 点）、結論の導き方（30 点）、書式（10 点）で採点する。

注2 書式とは、標題、背景、目的、材料と方法、結果、考察、結論、ならびに参考文献を指す。

家畜飼養管理学演習 II の成績評価に関するガイドライン

- ① 家畜飼養管理学演習 II の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀 (90 点以上)	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優 (90 点未満から 80 点以上)	基本的な目標を十分に達成している
良 (80 点未満から 70 点以上)	基本的な目標を達成している
可 (70 点未満から 60 点以上)	基本的な目標を最低限達成している
不可 (60 点未満)	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 家畜飼養管理学演習 II の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（プレゼンテーション 50% とレポート 50%）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

【プレゼンテーションの評価基準】

演習中に得られたデータを基に、プレゼンテーションを行い、以下の 4 つの評価項目を採点する。プレゼンテーションの作成要領は、manaba を利用して案内する。

評価項目 ^{注1}	標準+ α	標準	評価ライン	評価しない
材料と方法	材料と方法がわかりやすく整理され、述べられている。	材料と方法が整理され述べられている。	材料と方法が述べられている。	材料と方法が述べられていない。
結果	得られた結果が整理され、図表を用いてわかりやすく記述されている。	得られた結果が図表を用い記述されている。	得られた結果が記述されている。	得られた結果が記述されていない。
考察	理論を踏まえた考察がなされ、結論には説得力がある。	理論を踏まえた考察がなされている。	考察がなされている。	考察がなされていない。
デザイン ^{注2}	書式に不備はなく、見やすいように工夫がされている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

^{注1} 材料と方法（15 点）、結果（15 点）、考察（15 点）、デザイン（5 点）で採点する。

^{注2} デザインとは、プレゼンテーションへの工夫（写真、デザインの工夫）、相手に伝えるための熱意も含まれる。

【レポートの評価基準】

家畜の飼養管理、牧草栽培、堆肥生産に関する基礎知識の習得状況を別途定める期日までに提出されたレポートで評価する。評価では、以下の4つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、manabaを利用して案内する。

評価項目 ^{注1}	標準+α	標準	評価ライン	評価しない
問題の設定	背景がわかりやすく述べられ、問題設定が明確にされている。	背景の説明と問題設定が適切である。	背景と問題設定が記述されている。	背景、問題設定のいずれかが記述されていない。
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。
結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論が唐突である。
書式 ^{注2}	書式に不備はなく、見やすいように工夫がされている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

注1 問題の設定（15点）、論旨の展開（15点）、結論の導き方（15点）、書式（5点）で採点する。

注2 書式とは、標題、背景、目的、材料と方法、結果、考察、結論、ならびに参考文献を指す。

畜産化学実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 畜産化学実験の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 畜産化学実験の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（レポート）について以下の項目を下記に定める基準で評定する。

レポートの評価基準^{注1}

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、実験最終日に対面あるいは online で案内する。

評価項目	標準+ α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
問題の設定	背景がわかりやすく述べられ、問題設定が既存研究に基づいて明確にされている。	背景の説明と問題設定が適切であり、既存研究が紹介されている。	背景と問題設定が説明されている。	背景、問題設定のいずれかが説明されていない。
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。
結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論は唐突である。
書式 ^{注2}	書式に不備はなく、見やすいように工夫がされている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

注¹ 問題の設定 (20 点)、論旨の展開 (30 点)、結論の導き方 (30 点)、書式 (20 点) で採点する。

注⁴ 書式とは、標題、背景、目的、材料と方法、結果、考察、結論、ならびに参考文献を指す。

畜産生化学実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 畜産生化学実験の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 畜産生化学実験の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（実験ノートへの記録とレポート）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. 実験ノートの評価基準

授業開始時に実験ノートを下記要領で確認し、評価する。実験ノートの記載要領は、事前に manaba を利用して案内する。

評価項目	評価する	評価しない
実験準備 ^{注1}	実験の目的および手順が適切に記載されている。	実験ノートを記載していない。
結果の記録 ^{注2}	実験の記録（修正点、ミス、結果など）が適切に記載されている。	実験ノートを記載していない。

^{注1} 授業開始時に確認する。^{注2} 翌授業開始時に確認する。毎授業開始時の確認時間において提出されたノート进行评估対象とし、実験準備（1 点×15 回分）、結果の記録（1 点×15 回分）で採点する。

2. レポートの評価基準^{注3}

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、manaba を利用して案内する。

評価項目	標準+α	標準	評価可能の最低ライン	評価しない
問題の設定	背景がわかりやすく述べられ、問題設定が既存研究に基づいて明確にされている。	背景の説明と問題設定が適切であり、既存研究が紹介されている。	背景と問題設定が説明されている。	背景、問題設定のいずれかが説明されていない。

	る。			
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。
結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論は唐突である。
書式 ^{注4}	書式に不備はなく、見やすいように工夫がされている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

^{注3} 問題の設定（20点）、論旨の展開（20点）、結論の導き方（20点）、書式（10点）で採点する。

^{注4} 書式とは、標題、背景、目的、材料と方法、結果、考察、結論、ならびに参考文献を指す。

栄養生化学実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 栄養生化学実験の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 栄養生化学実験の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（実験ノートへの記録とレポート）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. 実験ノートの評価基準

授業開始時に実験ノートを下記要領で確認し、評価する。実験ノートの記載要領は、事前に manaba を利用して案内する。

評価項目	評価する	評価しない
実験準備 ^{注1}	実験の目的および手順が適切に記載されている。	実験ノートを記載していない。
結果の記録 ^{注2}	実験の記録（修正点、ミス、結果など）が適切に記載されている。	実験ノートを記載していない。

^{注1} 授業開始時に確認する。^{注2} 翌授業開始時に確認する。毎授業開始時の確認時間において提出されたノートの評価対象とし、実験準備（1 点×15 回分）、結果の記録（1 点×15 回分）で採点する。

2. レポートの評価基準^{注3}

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、manaba を利用して案内する。

評価項目	標準+α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
問題の設定	背景がわかりやすく述べられ、問題設定が既存研究に基づいて明確にされている。	背景の説明と問題設定が適切であり、既存研究が紹介されている。	背景と問題設定が説明されている。	背景、問題設定のいずれかが説明されていない。

	る。			
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。
結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論は唐突である。
書式 ^{注4}	書式に不備はなく、見やすいように工夫がされている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

^{注3} 問題の設定（20点）、論旨の展開（20点）、結論の導き方（20点）、書式（10点）で採点する。

^{注4} 書式とは、標題、背景、目的、材料と方法、結果、考察、結論、ならびに参考文献を指す。

情報処理演習の成績評価に関するガイドライン

- ① 情報処理演習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 情報処理演習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（レポート）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. レポートの評価基準

授業中に例題を説明し、毎回出題された課題についてその解析結果をレポートとして提出する。

評価項目	評価する	評価しない
解析手順	帰無仮説および手順が適切に記載されている。	記載していない。
提出期限	課題，出題後 1 週間。	期限を過ぎた。

畜産物加工実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 畜産物加工実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 畜産物加工実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（レポートと試験）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. レポートの評価基準

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、対面あるいは on line にて案内する。

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
レポート内容 (50%)	材料と製造方法、注意点、考察など、実習レポートの構成をよく理解している。他人が実習内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や独自の注意点が書かれている。	材料と製造方法、注意点、考察など、実習レポートの構成をよく理解している。他人が実習内容を理解するのに十分な記述がされている。	実習内容と要点が正確に記載されている。	全ての実習内容と要点が記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、要点の整理や説明に不十分な点が多すぎる。

2. 試験の評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限度達成している	基本的な目標を、達成していない
確認テスト (50%)	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ており、他の加工製品、製造方法への応用についても十分な理解と実践が可能な知識が定着している。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ており、他の加工製品、製造方法への応用についても理解ができている。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ている。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が出来ている。	加工製品、製造方法に対する理解が不足している

食品製造実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 食品製造実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 食品製造実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（レポートと試験）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. レポートの評価基準

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、対面あるいは on line にて案内する。

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
レポート内容 (50%)	材料と製造方法、注意点、考察など、実習レポートの構成をよく理解している。他人が実習内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や独自の注意点が書かれている。	材料と製造方法、注意点、考察など、実習レポートの構成をよく理解している。他人が実習内容を理解するのに十分な記述がされている。	実習内容と要点が正確に記載されている。	全ての実習内容と要点が記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、要点の整理や説明に不十分な点が多すぎる。

2. 試験の評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限度達成している	基本的な目標を、達成していない
確認テスト (50%)	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ており、他の加工製品、製造方法への応用についても十分な理解と実践が可能な知識が定着している。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ており、他の加工製品、製造方法への応用についても理解ができている。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ている。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が出来ている。	加工製品、製造方法に対する理解が不足している

家畜人工繁殖学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 家畜人工繁殖学実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 家畜人工繁殖学実習の成績評価は、確認試験と修業試験について、下記に定める基準で評定する。

1. 確認試験：家畜の人工授精、体外受精および受精卵移植技術の基本的な手技を説明し、行うことができる（20 点）。
2. 修業試験：家畜の人工授精、体外受精、受精卵移植技術および関係法規を説明できる（80 点）。

家畜育種・繁殖学実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 家畜育種・繁殖学実験の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 家畜育種・繁殖学実験の成績評価は、指示された期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 2 つの評価項目で評定する。

レポートの評価基準^{注 1}

評価項目	標準+ α	標準
実験の目的・方法・結果のまとめ	実験の目的・方法・結果について、記述の組み立て・内容展開を工夫し分かりやすくまとめられている。	実験の目的・方法・結果について、適切にまとめられている。
考察	実験結果を基に、実験の目的・方法・結論、応用や展開について分かりやすく考察されている。	実験結果を基に、実験の目的・方法・結論について適切に考察されている。

^{注 1} 実験の目的・方法・結果のまとめ（60 点）、考察（40 点）で採点する。

牧場実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 牧場実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（実習到達度と振り返りレポート）を下記に定める基準で評定する。

実習到達度 50 点（実技テスト 25 点、ミニッツレポート 25 点）、振り返りレポート 50 点の合計 100 点満点として採点する。

A. 実習到達度（実技テスト）の評価基準

実習期間中、実技テスト（ロープワーク、ハンドリング、正姿勢、草量推定、体尺測定などのうち 3 つ以上）を実施し、下記の基準で評価する。^{注 1}

標準+α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習中の注意点（動作、安全、方法など）が補助なしで正確に実施でき、かつ制限時間内に一定の作業量が達成できる。	実習中の注意点（動作、安全、方法など）が補助なしで正確に実施でき、作業を達成できる。	実習中の注意点（動作、安全、方法など）が補助されれば正確に実施できる。	実習中の注意点（動作、安全、方法など）が実施できない。

^{注 1} 天候等により実技テストの内容は変わるが、実施した実技テストの総得点を 25 点とする。

B. 実習到達度（ミニッツレポート）の評価基準

実習開始時および実習終了時に同じ内容のミニッツレポートを実施し、実習期間中に得られた知識の定着度の確認を行う。

標準+α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習中の解説・体験で知識が定着し、実習前から成長している。	実習中の解説・体験で、実習前から成長している。	実習中の解説・体験を覚えている。	実習中の解説・体験を覚えていない。

C. 振り返りレポートの評価基準

別途定める期日までに提出された振り返りレポートを評価対象とし、以下の5つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、manabaを利用して案内する。

評価項目 ^{注2}		標準+α	標準	評価可能ライン	評価しない
振り返り	実習内容の振り返り	実習項目の目的・方法・注意点等が明確にまとめられている。	実習項目の目的・方法・注意点等がまとめられている。	実習項目の方法がまとめられている。	実習項目に関してまとめられていない。
	気づき	体験から気づきを見出し新たな疑問につなげ、自分で調べている。	体験から気づきを見出し新たな疑問につなげている。	体験から気づきを見出している。	体験から気づきを見出せていない。
論述	論旨展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。
	結論	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨と結論に矛盾がない。	結論は唐突である。
体裁	書式 ^{注3}	書式に不備はなく、見やすく工夫されている。	書式に不備はない。	書式の一部に不備がある。	書式の全てに不備がある。

^{注2} 実習内容の振り返り（10点）気づき（10点）、論旨展開（10点）、結論（10点）、書式（10点）で採点する。

^{注3} 書式とは、標題、背景、目的、材料と方法、結果、考察、結論、ならびに参考文献を指す。

家畜解剖学演習の成績評価に関するガイドライン

- ① 家畜解剖学演習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 家畜解剖学演習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（小テスト、筆頭試験、レポート、授業態度）について以下の 3 項目を下記に定める基準で評定する。

1. 小テスト及び筆頭試験

動物体の構造に関する講義及び生殖器の組織観察後の小テストをそれぞれ 10 点満点で、解剖実習後の筆頭試験を 30 点満点で採点し、理解力を評価する。

2. レポートの評価基準

解剖実習後の定められた期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 2 つの評価項目で 40 点満点で採点する。

評価項目	標準+ α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
項目の設定	実施項目の全てを適切に細かく設定している。	実施項目の全てを適切に設定している。	実施項目の全てを設定している。	実施項目の一部が設定されていない。
説明の内容	適切に図示説明し、さらに自己学習した内容を記載している。	適切に図示説明している。	最小限の図示説明を行っている。	図示説明が不足している。

3. 授業態度

授業に取り組む意欲を出席状況を元に 10 点満点で採点する。特に、欠席や遅刻など授業への参加姿勢を重視して評価する。

欧文講読（畜産科学）の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 欧文講読科目の成績評価は、以下の 4 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 科学、農学、ならびに畜産科学に関連する英語の代表的な用語を理解し、その内容を説明できる（25 点）
 2. 科学、農学、ならびに畜産科学に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる（25 点）。
 3. 科学、農学、ならびに畜産科学に関連する簡単な文章を英語で書くことができる（25 点）。
 4. 科学、農学、ならびに畜産科学に関連する講義・発表などに対して活発な質疑応答ができる（25 点）。

各項目の成績評価の基準

- ・指導教員は、1-4 の評価項目を各 25 点満点として採点する。

農村課題解決プログラムの成績評価に関するガイドライン

- ① 農村課題解決プログラムの成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 農村課題解決プログラムの成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（個々人に与えられるミッションへの対応）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. 情報へのアクセスと情報の分析・加工

クライアントが求める解決課題を検証するに当たって、各々の受講生に与えられるミッションを遂行するために、必要不可欠な情報にアクセスした上で、得られたデータ・情報をしかるべき手法を用いて分析・加工したのかが問われる。

評価項目	評価する	評価しない
情報へのアクセス(10 点)	関連文献や統計に積極的にアクセスし、多くの情報・データを収集している。	関連文献や統計へのアクセスが不十分であり、収集した情報・データが乏しい。
情報の分析・加工（10 点）	①得られた情報・データを、しかるべき分析手法を駆使して解析している。 ②分析結果が図表の形で整理され、何らかのメッセージが用意されている。	①得られた情報・データに特定の手法に基づいた分析が加わっていない ②分析結果が記述的で、かつ意味のあるメッセージが用意されていない。

2. 成果報告（書）の評価基準

課題解決に向けた調査・研究の遂行, その結果の整理, 成果報告書の作成に当たって, 各々受講生の貢献に対する質・量进行评估する.

評価項目	標準+ α	標準	評価可能の最低ライン	評価しない
調査票の作成 (20 点)	目的に合わせた調査項目の組み合わせが体系的であり, 効果的な回答を得るために工夫されている.	目的に合わせた調査項目が網羅されている	調査票の提出	調査票の未提出
調査の遂行 (20 点)	調査票の質問項目に漏れなく, 分析に有効な回答が得られている.	調査票の質問項目に多くの回答が得られている.	調査票に必要な最低限の回答が得られている	調査票に必要な回答が全く得られていない
調査結果の分析 (20 点)	調査結果の性質に合わせた分析手法に独創性や新規性が認められる.	調査結果の性質に合わせた適正な分析が行われている.	調査結果が何らかの手法によって分析されている.	調査結果に分析が加わっていない.
報告書の作成 (20 点)	調査のプロセス, 調査によって得られた情報・データの分析・解析の結果, 分析結果の考察に独創性・新規性が認められる.	調査のプロセス, 調査によって得られた情報・データの分析・解析の結果, 分析結果の考察に整合性が認められる.	調査のプロセス, 調査によって得られた情報・データの分析・解析の結果, 分析結果の考察が述べられている.	調査のプロセス, 調査によって得られた情報・データの分析・解析の結果, 分析結果の考察が述べられていない.

欧文講読科目（食料農業経済学）の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 欧文講読科目の成績評価は、以下の 4 項目を下記に定める基準で評定する。
1. 科学、農学、ならびに食料農業経済学に関連する英語の代表的な用語を理解し、その内容を説明できる（25 点）
 2. 科学、農学、ならびに食料農業経済学に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる（25 点）。
 3. 科学、農学、ならびに食料農業経済学に関連する簡単な文章を英語で書くことができる（25 点）。
 4. 科学、農学、ならびに食料農業経済学に関連する講義・発表などに対して活発な質疑応答ができる（25 点）。

各項目の成績評価の基準

- ・指導教員は、1-4 の評価項目を各 25 点満点として採点する。

フィールド実習の成績評価に関するガイドライン

- ① フィールド実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② フィールド実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（各実習地における実技テストと実習レポート）について以下の項目を下記に定める基準で評定し、受講施設の平均値を最終評価とする。

1. 実技テストの評価基準

評価項目 ^{注1}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実技の習得状況	指導を受けた実技について、決められた時間内に正確に実施できる	指導を受けた実技について、時間はかかるが、実施できる。	指導を受けた実技が全く実施できない。

^{注1} 実技の習得状況（30点）

2. 実習レポートの評価基準^{注2}

評価項目 ^{注2}	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
実習レポート	提案された課題に則って、レポートが書かれている。	提案された課題に則ってレポートが書かれているが、内容が不十分である。	提案された課題に則ってレポートが書かれていない。

^{注2} 実習レポート（70点）

食料生命科学科：実験・実習・演習・欧文購読科目等成績評価ガイドライン一覧表

学科共通			
開講期	科目コード	科目名称	担当教員
後期	349652265301	基礎化学実験（食料生命科学）	樗木 直也/赤木 功
後期	349752215301	食品生化学実験	イブラヒム ヒッサム/宮田 健
後期	349752215302	食品分析化学実験	南 雄二/加治屋 勝子
後期	349752265302	微生物学実験	石橋 松二郎/鶴丸 博人

食品機能科学				
	開講期	科目コード	科目名称	担当教員
5	前期	341000000093	酵素化学実験(食品機能科学)	花城 勲/南 雄二
6	前期	341000000094	分子生物学実験	藤田 清貴/北原 兼文
7	前期	341000000095	食品機能科学実験	坂尾 こず枝/侯 徳興
8	後期	341000000097	食品製造実習	後藤 貴文/宮田 健
9	不定期	341000000116	インターンシップ研修（食品機能）	宮田 健
10	前期	349952236201	欧文演習（食品機能）	宮田 健

食環境制御科学				
	開講期	科目コード	科目名称	担当教員
11	前期	341000000103	食環境微生物学実験	池永 誠/境 雅夫
12	前期	341000000104	植物生化学・分子生物学実験	岡本 繁久/中村 正幸
13	前期	341124000005	青果保蔵学実験	濱中 大介
14	前期	340000000107	食品プロセス学実習	紙谷 喜則
15	前期	341000000106	欧文演習(食環境制御)	濱中 大介

焼酎発酵・微生物科学				
	開講期	科目コード	科目名称	担当教員
16	前期	341000000108	焼酎製造学実験	高峯和則/吉崎由美子/奥津果優
17	前期	341000000109	遺伝子工学実験	玉置尚徳/二神泰基
18	前期	341000000110	酵素化学実験(焼酎微生物)	吉崎由美子
19	通期	341000000111	発酵食品製造実習	高峯 和則/玉置尚徳/石橋 松二郎/二神 泰基/吉崎 由美子/奥津果優/鶴丸博人
20	前期	341000000112	欧文演習(焼酎微生物)	鶴丸 博人
21	後期	341422000020	ビジュアルデザイン演習	田中 望

食料生命科学科 基礎化学実験（食料生命科学）成績評価に関するガイドライン

担当教員 樗木直也・赤木功

基礎化学実験（食料生命科学）の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 基礎化学実験（食料生命科学）の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
レポート内容 (100%)	実験を手順に従って適切に実施し、結果を正確に記録し、その結果を適切に取り扱って正しく計算し妥当な結果を算出し、その結果から十分な考察を行っている。	実験を手順に従って適切に実施し、結果を正確に記録し、その結果を適切に取り扱って正しく計算し結果を算出し、その結果から考察を行っている。	実験を手順に従って実施し、結果を記録し、その結果を使って正しく計算し結果を算出し、その結果から考察を行っている。	実験を手順に従って実施し、結果を記録し、その結果を使って計算し結果を算出している。	レポートを提出していない。または提出されたレポートの結果の記録や計算が十分行われていない。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「レポートによって評価する（100%）」と記載する。

食料生命科学科 食品生化学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 イブラヒム ヒッシヤム
宮田 健

食品生化学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 食品生化学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。自分で課題を見つけて、自ら調べたり、指導者に質問することができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。	手順書に従って、安全に実験を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。論理的な優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（50%）とレポート内容（50%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 食品分析化学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 南雄二・加治屋勝子

食品分析化学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。
成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 食品分析化学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。 実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。	手順書に従って、安全に実験を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。 提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（50%）とレポート内容（50%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 微生物学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 石橋 松二郎

微生物学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 微生物学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験課題の達成度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。	手順書に従って、安全に実験を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	材料と方法、結果などをよく理解している。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験課題の達成度（50%）とレポート（50%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 酵素化学実験（食品機能科学）の成績評価に関するガイドライン

主担当教員 花城 勲

酵素化学実験（食品機能科学）の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行い、100点満点で点数化する。また、シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、表中の評価項目とその割合、および各項目における評価基準を記載する。

酵素化学実験(食品機能科学)の成績評価項目および評価基準

評価項目	評価基準*				
	秀	優	良	可	不可
実験の実施状況 (50%)	実験書記載の手順・教員による指示に従って適切な方法で要領よく実験し、質の高いデータを取得できている。 グループ実験に積極的に取り組んでいる。	実験書記載の手順・教員による指示に従って適切な方法で実験し、質の高いデータを取得できている。 グループ実験にきちんと取り組んでいる。	実験書記載の手順・教員による指示に従って実験し、データを取得できている。 グループ実験に相応に取り組んでいる。	実験書記載の手順・教員による指示に概ね従って実験し、必要なデータの取得はできている。 グループ実験に相応に取り組んでいる。	実験書記載の手順・教員による指示を守らず、実験の未実施、不適切な方法での実験、データの未取得等がある。 グループ実験に参加が不十分である。
実験結果のまとめ方 (30%)	測定値を用いて正しく計算し、適切な図表を用いて、結果が明瞭かつ必要十分な情報を提示するようまとめられている。	測定値を用いて正しく計算し、適切な図表を用いて、結果が明瞭にまとめられている。	測定値を用いて計算し、適切な図表を用いて、結果がまとめられている。	測定値を用いて計算し、図表を用いて、結果がまとめられている。	測定値の欠落、未計算、図表の未作成箇所がある。
ディスカッションでの発表、理解度(20%)	測定原理、関与する化学反応、測定項目の意味、解釈等についての十分な理解に基づき、適切な考察ができるとともに、他の事項と関連付けた考察ができる。	測定原理、関与する化学反応、測定項目の意味、解釈等についての十分な理解に基づき、適切な考察ができる。	測定原理、関与する化学反応、測定項目の意味、解釈等について概ね理解しており、相応の考察ができる。	測定原理、関与する化学反応、測定項目の意味、解釈等について概ね理解しており、考察している。	測定原理、関与する化学反応、測定項目の意味、解釈等についての理解および考察が著しく不十分である。

* 秀: 基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている。

優: 基本的な目標を、十分に達成している。

良: 基本的な目標を、達成している。

可: 基本的な目標を、最低限達成している。

不可: 基本的な目標を、達成していない。

食料生命科学科 分子生物学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 藤田清貴/北原兼文

分子生物学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 分子生物学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験ノートにおける実験過程の記載内容の評価(60%)	実験手順が非常に分かりやすく記載されており、手順書の内容をよく理解している。また、実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる記載内容である。	実験手順が正確に分かりやすく記載されており、手順書の内容をよく理解している。	実験手順が正確に記載されている。	実験過程が記載されている。	レポートを提出していない。実験手順が記載されていない。
実験ノートにおける実験考察の記載内容の評価(40%)	実験時間中に教授した以外の考察が記載されており、優れた考察や展望が記載されている。	実験時間中に教授した以外の考察が記載されており、自分で考察したことがうかがえる内容が記載されている。	実験考察が十分記載されている。	実験の考察が記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの考察に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験ノートにおける実験過程の記載内容の評価(60%) 実験ノートにおける実験考察の記載内容の評価(40%)」と記載する。

食料生命科学科 食品機能科学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 坂尾こず枝・侯徳興

食品機能科学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。
成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 食品機能科学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。 実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。	手順書に従って、安全に実験を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
実験ノートの記載内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験の構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。 優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験の構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	実験内容と実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	実験ノートを提出していない。 提出された実験ノートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（50%）と実験ノートの記載内容（50%）によって評価する」と記載する。

食品製造実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 食品製造実習の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 食品製造実習の成績評価は、シラバスに示した成績の評価基準（レポートと試験）について以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. レポートの評価基準

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の 4 つの評価項目を採点する。レポートの作成要領は、対面あるいは on line にて案内する。

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
レポート内容 (50%)	材料と製造方法、注意点、考察など、実習レポートの構成をよく理解している。他人が実習内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や独自の注意点が書かれている。	材料と製造方法、注意点、考察など、実習レポートの構成をよく理解している。他人が実習内容を理解するのに十分な記述がされている。	実習内容と要点が正確に記載されている。	全ての実習内容と要点が記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、要点の整理や説明に不十分な点が多すぎる。

2. 試験の評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限度達成している	基本的な目標を、達成していない
確認テスト (50%)	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ており、他の加工製品、製造方法への応用についても十分な理解と実践が可能な知識が定着している。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ており、他の加工製品、製造方法への応用についても理解ができている。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が十分に出来ている。	加工製品、製造方法に対する基礎的な理解が出来ている。	加工製品、製造方法に対する理解が不足している

インターンシップ研修に関するガイドライン

- ① インターンシップ研修^{注1}の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

^{注1} 本ガイドラインは、インターンシップ研修（農業生産科学科）とインターンシップ研修（食料生命科学科食品機能科学コース）に共通のガイドラインとする。

- ② インターンシップ研修の成績評価は、事前講習及び事後講習へ出席した者を対象として、以下の 2 項目を下記に定める基準で評定する。

1. インターンシップ研修先での受講態度^{注2}（30 点）

インターンシップ研修先の担当者に以下の 3 項目について所見をつけてもらい、所見を参考にして、インターンシップ担当教員が受講態度を採点する。

評価項目	標準+ α	標準	標準- α	評価可能な最低ライン	評価しない
意欲	インターンシップに対してかなり意欲的に参加した。また、事前に研修先やその業界の調査を十分に行っていた。	インターンシップ研修先での研修に対して意欲的に参加した。また、事前に研修先やその業界の調査を行っていた。	インターンシップ研修先での研修に対して参加した。また、事前に研修先の調査を行っていた。	インターンシップ研修先での研修に対して参加した。	インターンシップ研修先での研修に対して参加しなかった。
興味関心	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に	インターンシップの研修先やその業界に

	対する興味関心が非常に高い。また、積極的に質問して、研修先や業界に関する情報を収拾する意欲が非常に高い。	対する興味関心が高い。また、研修先や業界に関する情報収拾する姿勢が感じられた。	対する興味関心がある。また、研修先や業界に関する質問を行った。	対する興味関心がある。	対する興味関心が感じられなかった。
理解	研修内容に対する理解度が非常に高い。研修先やその業界に関する理解度も非常に高い。	研修内容を十分に理解している。研修先やその業界に関して十分に理解度している。	研修内容を理解している。研修先やその業界に関して理解している。	研修内容に対する理解はしている。	研修内容に対する理解が不十分である。

注2 意欲（10点）、興味関心（10点）、理解（10点）で採点する。

2. レポート（60点）の評価^{注3}

別途定める期日までに提出されたレポートを評価対象とし、以下の3つの評価項目を採点する。

評価項目	標準+α	標準	評価可能な最低ライン	評価しない
研修先での実習内容	研修先およびその業界全体に関する調査研究が十分であり、わかりやすく紹介されている。研修先での研究内容がわかりやすく説明されている。	研修先に関する調査研究を行い、説明されている。研修先での研究内容が説明されている。	研修先での研究内容が説明されている。	研修先での研究内容が説明されていない。
論旨の展開	論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる。	論旨の展開が明確である。	論旨は理解できるレベルにある。	論旨が不明確である。

結論の導き方	独創性がみられ、結論には説得力がある。	明確な結論を導いている。	論旨の展開と結論の間に矛盾はない。	結論は唐突である。
--------	---------------------	--------------	-------------------	-----------

注3 問題の設定（20点）、論旨の展開（20点）、結論の導き方（20点）で採点する。

3. 事後研修（10点）の評価^{注4}

事後研修への受講態度を以下の3項目で評価する。

評価項目	評価する	評価しない
グループワーク	事後研修でのグループワークに意欲的・積極的に参加した。	事後研修でのグループワークに意欲的・積極的に参加しなかった。
質疑応答	事後研修で意欲的・積極的に質疑応答を行った。	事後研修で質疑応答しなかった。

注4 グループワーク（5点）、質疑応答（5点）で採点する。

食料生命科学科 欧文演習（食品機能）の成績評価に関するガイドライン

担当教員 宮田 健

欧文演習（食品機能）の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 欧文演習（食品機能）の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
発表力 (60%)	論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献を適切に示した発表をしている。 分かりやすく見やすい発表資料が作成されている。 聴衆をひきつける発表が行われている。	論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献を適切に示した発表をしている。 分かりやすく見やすい発表資料が作成されている。	論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献を適切に示した発表をしている。	発表している。 論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献のいずれかが、適切に示されていない箇所がある。	発表していない。 発表において、聴衆が理解できない部分が多すぎる。
読解力 (25%)	全ての質疑に適切に答えている。 論文の批評を加えた回答を行なっている。 関連論文まで理解していないと答えられない回答をしている。	全ての質疑に適切に答えている。	全ての質疑に答えている。	質疑に答えている。 質疑に答えた内容に、わずかながら間違いがある。	質疑に答えられない。 質疑に答えた内容全てに、問題がある。
質疑応答への参加 (15%)	全ての発表者に、発表内容を理解した質問をしている。 発表者が理解しやすく、丁寧な質問をしている。 関連論文まで理解していないと思いつかない質問をしている。	全ての発表者に、発表内容を理解した質問をしている。	全ての発表者に、質問をしている。	質問している。 発表内容を理解していない質問を行っている。	質問していない。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「発表力（60%）、読解力（25%）、質疑応答への参加（15%）から判断する。」と記載する。

食料生命科学科 食環境微生物学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 池永誠/境雅夫

食環境微生物学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100点満点で点数化する。

表. 食環境微生物学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的の達成度 (50%)	実験の原理や手順をほぼ正確に理解している。指針書に従って効率的かつ安全に実験を進めることができる。	実験の原理や手順をおおむね理解している。指針書に従って安全に実験を進めることができる。	実験手順をおおむね理解している。指針書に従って、実験を進めることができる。	実験手順の理解はやや不十分である。教員やTAの助言があれば、実験を進めることができる。	実験手順を理解していない。常に教員やTAの助言がなければ、実験を進めることができない。
レポート内容 (50%)	レポートが正しくフォーマットされている。実験データが整理され、結果が正確かつ明瞭に説明できている。結果に基づいた論理的な考察が書けている。	レポートがおおむね正しくフォーマットされている。実験データが整理され、結果が正確に説明できている。結果に基づいた考察が書けている。	レポートを正しくフォーマットしようとしている。実験データが整理され、結果が説明できている。もう少し説明を要するが、考察が書けている。	レポートは提出されているものの、レポートのフォーマットに不備が認められる。実験データの整理や結果の説明に不十分な点が認められる。	レポートが提出されていない。

なお、シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度 (50%) とレポート内容 (50%) によって評価する」と記載している。

植物生化学・分子生物学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 岡本繁久・中村正幸

植物生化学・分子生物学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 植物生化学・分子生物学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。実験手順に関する注意点も理解し、手順書の内容を理解していない学に対しても、実験を安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。	手順書に従って、安全に実験を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解し書かれている。特に考察において、導き出された結果について、良く吟味され、結論の適切さが伝えられている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（50%）とレポート内容（50%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 青果保蔵学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 濱中大介

青果保蔵学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 青果保蔵学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的と結果の理解度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。得られた結果にの妥当性を評価できる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に実験を進め、妥当な結果を得ることができる。	手順書に従って、安全に実験を進め、結果を得ることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポートの体裁 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。既往の論文等と比較しながら優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験後に提出するレポートについて、体裁（要旨、緒言、実験方法、結果・考察、結論、引用文献）と、実験目的と取得結果の理解度によって評価する。体裁：50%、理解度：50%」と記載する。

食料生命科学科 食品プロセス学実習の成績評価に関するガイドライン

担当教員 紙谷喜則

食品プロセス学実習の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。
成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 食品プロセス学実習の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実習目的の達成度 HACCPマニュアルの作成 (30%)	手順書の内容をよく理解し、円滑に、実習をリードして進めることができる。 実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、円滑に、実験実習を進めることができる。	手順書に従って、マニュアル作成実習を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
実習の目的達成度 プレゼン (20%)	原材料と危害と分析法、結果、CCPの選定からCLに至る検証手段を考察など入れて的確に説明できる。 質疑応答で適確に回答を述べることができる。	原材料と危害と分析法、結果、CCPの選定からCLに至る検証手段を考察など入れて的確に説明できる。	原材料と危害と分析法、結果を考察など入れて的確に説明できる。	全ての原材料と危害と分析法が記載されている。	プレゼンに参加していない。
実習の目的達成度 監査シュミレーション (30%)	監査主任を演じ、監査の手順を理解して、リーダーとして監査シュミレーションをとりまとめる。	品管部門として監査のインタビューに対して的確、齟齬なく質疑応答できる。	製造部門としてインタビューに対して的確、齟齬なく質疑応答できる。	その他の部門を担当しインタビューに対して的確、齟齬なく質疑応答できる。	インタビューをしていない。
実習の目的達成度 監査報告書 (20%)	監査主任を演じ、監査報告書を作成し、インタビュー結果から複数の要求事項の不適合を見つけ、是正処置、予防処置まで適切にケアしている。	監査員として監査報告書の作成に協力し、自らの意見を被監査側に伝えて不適合の同意をえられる。	監査員として参加し、適合性に関する規格との照合ができる。	監査員として参加し、TAなどからのアドバイスにより不適合を見つけられる。	監査報告書の作成に関与していない。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「HACCP マニュアルの作成、(30%)、プレゼン (20%)、監査シュミレーション (30%)、監査報告書 (20%) の評価項目で評価する。」と記載する。

食料生命科学科 欧文演習（食環境制御科学）の成績評価に関するガイドライン

担当教員 濱中大介

欧文演習（食環境制御科学）の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 欧文演習（食環境制御科学）の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
発表力 (60%)	論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献を適切に示した発表をしている。分かりやすく見やすい発表資料が作成されている。聴衆をひきつける発表が行われている。	論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献を適切に示した発表をしている。分かりやすく見やすい発表資料が作成されている。	発表している。	発表している。論文の要旨・材料と方法・結果・考察・参考文献のいずれかが、適切に示されていない箇所がある。	発表していない。発表において、聴衆が理解できない部分が多すぎる。
読解力 (25%)	全ての質疑に適切に答えている。論文の批評を加えた回答を行なっている。関連論文まで理解していないと答えられない回答をしている。	全ての質疑に適切に答えている。	全ての質疑に答えている。	質疑に答えている。質疑に答えた内容に、わずかながら間違いがある。	質疑に答えられない。質疑に答えた内容全てに、問題がある。
質疑応答への参加 (15%)	全ての発表者に、発表内容を理解した質問をしている。発表者が理解しやすく、丁寧な質問をしている。関連論文まで理解していないと思いつかない質問をしている。	全ての発表者に、発表内容を理解した質問をしている。	全ての発表者に、質問をしている。	質問している。発表内容を理解していない質問を行っている。	質問していない。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「演習中に行われる発表および質疑応答で評価する（100%）。内訳は発表力（60%）、読解力（25%）、質疑応答への参加（15%）とする。」と記載する。

食料生命科学科 焼酎製造学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 高峯 和則、吉崎由美子、奥津果優

焼酎製造学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 焼酎製造学実験の評価項目および評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を十分に達成した上で極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を十分に達成している	基本的な目標を達成している	基本的な目標を最低限達成している	基本的な目標を達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく確認し、安全かつ円滑に実験を進めることができる。実験手順を他の学生に分かりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に実験を進めることができる。	手順書に従って安全に実験を進めることができる	TAなどの助言や手順書に従って実験を進めることができる。	TAなどの助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（50%）とレポート内容（50%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 遺伝子工学実験の成績評価に関するガイドライン

担当教員 玉置尚徳、二神泰基

遺伝子工学実験の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 遺伝子工学実験の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。実験手順を、他の学生にわかりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を、安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に、実験を進めることができる。	手順書に従って、安全に実験を進めることができる。	TA等の助言や手順書に従って、実験を進めることができる。	TA等の助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（40%）とレポート内容（60%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 酵素化学実験(焼酎発酵微生物)の成績評価に関するガイドライン

担当教員 吉崎 由美子

酵素化学実験（焼酎発酵微生物）の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 酵素化学実験（焼酎発酵・微生物）の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を十分に達成した上で極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を十分に達成している	基本的な目標を達成している	基本的な目標を最低限達成している	基本的な目標を達成していない
実験目的の達成度 (50%)	手順書の内容をよく確認し、安全かつ円滑に実験を進めることができる。実験手順を他の学生に分かりやすく説明することができる。手順書の内容を理解していない学生の実験を安全に進める補助ができる。	手順書の内容をよく理解し、安全かつ円滑に実験を進めることができる。	手順書に従って安全に実験を進めることができる	TAなどの助言や手順書に従って実験を進めることができる。	TAなどの助言を理解できず、手順書に従った実験が進められない。
レポート内容 (50%)	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や展望が書かれている。	材料と方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が実験内容を理解するのに十分な記述がされている	実験結果が正確に記載されている。	全ての実験のデータが記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、データの整理や説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実験目的の達成度（50%）とレポート内容（50%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 発酵食品製造実習の成績評価に関するガイドライン

担当教員 高峯 和則、玉置尚徳、石橋松二郎、二神泰基、吉崎由美子、奥津果優、鶴丸博人

発酵食品製造実習の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。
成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 発酵食品製造実習の評価項目および評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を十分に達成した上で極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を十分に達成している	基本的な目標を達成している	基本的な目標を最低限達成している	基本的な目標を達成していない
原料栽培方法を説明することができる (20%)	原料栽培方法の内容をよく理解し、円滑に作業ができる。作業内容を他の学生に分かりやすく説明することができる。現状や課題を理解し、明確に説明することができる。	原料栽培方法の内容を理解し、円滑に作業ができる。作業内容を他の学生に分かりやすく説明することができる。現状や課題を理解している。	原料栽培方法の内容を自ら進めることができる。	教員の指示に従って作業を進めることができる。	教員の指示を理解できず、手順に従った作業が進められない。
発酵食品製造に関する基礎的手法を説明することができる (30%)	発酵食品の製造方法をよく理解し、円滑に作業ができる。作業内容を他の学生に分かりやすく説明することができる。現状や課題を理解し、明確に説明することができる。	発酵食品の製造方法を理解し、円滑に作業ができる。作業内容を他の学生に分かりやすく説明することができる。現状や課題を理解している。	発酵食品の製造方法を自ら進めることができる。	教員の指示に従って作業を進めることができる。	教員の指示を理解できず、手順に従った作業が進められない。
官能評価に関する基礎的手法を説明することができる (30%)	官能評価方法をよく理解し、円滑に評価ができる。結果を解釈し、酒の特徴と製造方法とを関連づけて説明できる。	官能評価方法を理解し、円滑に評価ができる。結果を解釈し、酒の特徴と製造方法との関連を理解している。	官能評価方法を理解し、円滑に評価ができる。	教員の指示にしたがって、官能評価ができる。	教員の指示が理解できず、官能評価ができない。
レポート内容 (20%)	方法、結果、考察など、実験レポートの構成をよく理解している。他人が内容を理解するのに十分な記述がされている。優れた考察や展望が書かれている。	方法、結果、考察など、実験レポートの構成を理解している。他人が内容を理解するのに十分な記述がされている。	結果が正確に記載されている。	全ての結果が記載されている。	レポートを提出していない。提出されたレポートにおいて、説明に不十分な点が多すぎる。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「実習目的の達成度（栽培方法 20%、製造手法 30%、官能評価 30%）とレポート内容（20%）によって評価する」と記載する。

食料生命科学科 欧文演習（焼酎微生物）の成績評価に関するガイドライン

担当教員:

高峯和則、玉置尚徳、石橋松二郎、吉崎由美子、奥津果優、二神泰基、鶴丸博人.

欧文演習（焼酎微生物）の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. 欧文演習（焼酎微生物）の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
発表力 (60%)	発表している。 指導教員の修正指示に全て対応した発表資料を用いて発表している。	発表している。 分かりやすく見やすい発表資料が作成されている。	発表している。	発表している。 発表において、聴衆が理解できない部分が多すぎる。	発表していない。
読解力 (25%)	全ての質疑に適切に答えている。	全ての質疑に答えている。 論文内容または質問内容を間違えて理解して、質疑に答えることがある。	全ての質疑に答えている。 論文内容または質問内容を間違えて理解して、全ての質疑に答えている。	質疑に答えている。 一部の質疑に答えられない。	全ての質疑に答えられない。
質疑応答への参加 (15%)	全ての発表者に、質問をしている。 発表者が理解しやすく、丁寧な質問をしている。	全ての発表者に、質問をしている。	質問している。	質問している。 発表内容を理解していない質問を行うことが多い。	質問していない。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「発表力（60%）、読解力（25%）、質疑応答への参加（15%）から判断する。」と記載する。

食料生命科学科 ビジュアルデザイン演習の成績評価に関するガイドライン

担当教員 田中 望

ビジュアルデザイン演習の成績評価は、以下の表に示した「評価項目と評価基準」に従って行う。成績評価は、100 点満点で点数化する。

表. ビジュアルデザイン演習の評価項目と評価基準

評価項目	評価基準				
	基本的な目標を、十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている	基本的な目標を、十分に達成している	基本的な目標を、達成している	基本的な目標を、最低限達成している	基本的な目標を、達成していない
デザイン案やレポート等の提出物 (50%)	提出物を、期限内に提出している。 指導教員の指示内容を理解した、デザイン案やレポート等が、提出されている。	提出物を、期限内に提出している。	提出物を、期限内に提出できる。 提出物に多くの不備がある。	提出物を、提出している。 提出物に多くの不備がある。	提出物を、提出していない。
焼酎ボトルのデザインの完成度 (50%)	作品（焼酎ボトル）を、期限内に提出している。 作品作成ルールを遵守した作品を、提出している。 完成度の高いデザインの作品（焼酎ボトル）が提出されている。	作品（焼酎ボトル）を、期限内に提出している。 作品作成ルールを遵守した作品を、提出している。	作品（焼酎ボトル）を、期限内に提出している。 作品（焼酎ボトル）に、多くの不備がある。	作品（焼酎ボトル）を、提出している。 作品（焼酎ボトル）に、多くの不備がある。	作品（焼酎ボトル）を、提出していない。

シラバスの「成績の評価基準および評価方法」の項目には、「デザイン案やレポート等の提出物で評価する(50%)。焼酎ボトルのデザインの完成度で評価する(50%)。」と記載する。

農林環境科学科：実験・実習・演習・欧文購読科目等成績評価ガイドライン一覧表

学科共通			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
1	4	349752145407	測量学実習Ⅰ 肥山浩樹/寺本行芳
2	5	349852145411	測量学実習Ⅱ 加治佐剛/寺岡行雄/地頭蘭隆

森林科学			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
3	3	340000000108	樹木実習 鵜川信
4	3	340000000110	森林基礎実習 岡勝/井倉洋二
5	3	340900000004	屋久島実習 奥山洋一郎
6	4	342100000002	育林学実習 鵜川信
7	4	349852146415	森林計測学実習 加治佐剛
8	4	340000000111	木質工学実験 服部芳明
9	4	349852140222	森林政策学演習 奥山洋一郎
10	5	349852146416	森林生態学実習 畑邦彦
11	5	349752385403	砂防学実習 寺本行芳
12	5	340000000114	森林利用学実習 岡勝
13	5	340000000106	科学基礎演習 加治佐剛
14	5	340623510002	森林科学欧文演習 加治佐剛
15	5	340000000125	フォレスター総合実習 加治佐剛

地域環境システム学			
	開講期	科目コード	科目名称 担当教員
16	3	340000000130	農山村フィールドワークⅠ 井倉洋二/平瑞樹
17	5	340000000132	農山村フィールドワークⅡ 井倉洋二/平瑞樹
18	5	341000000065	水土実験 伊藤祐二/平瑞樹
19	5	340623610010	環境物理学実験 西野吉彦/神田英司/末吉武志
20	6	340000000131	地域環境システム学演習 肥山浩樹/伊藤祐二/平瑞樹

測量学実習Ⅰの成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 4 項目で評定する。
1. 所定時間内に指定された精度で作業ができる。
 2. 器具を正しく取り扱うことができる。
 3. 得られたデータを正確に処理できる。
 4. 実習内容を成果物としてとりまとめることができる。

測量学実習Ⅱの成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

樹木実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 2 項目で評定する。
1. 学習した樹種の形態的特徴を説明できる。
 2. 学習したすべての樹種を葉の形状から同定できる。

森林基礎実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

屋久島実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

育林学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実習で観察・体験した内容について説明できる。
 2. 学習した内容を応用し、関連した問題に対応できる。
 3. 出された課題を適切に処理できる。

森林計測学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

木質工学実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

森林政策学演習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

森林生態学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

以下の二つの到達目標について、どの程度達成されたかについて、「実験・実習・演習科目の成績評価に関するガイドライン」に基づいて評定する。

1. 森林の動植物や微生物を身近なものとして捉えられるようにし、主要なものは同定できる。
2. 森林生態系のメカニズムを理解し、森林生態系に関する調査を実施できる。

具体的には、ガイドライン③の三項目を実習のレポート（50%）と課題提出・発表（50%）によって評定する。その際の評価基準は、ガイドライン①の基準に基づくものとする。

砂防学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

森林利用学実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

科学基礎演習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

森林科学欧文演習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

フォレスター総合実習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実施した内容について説明できる。
 2. 関連する知識や技術を、実物を用いて実行できる。
 3. 出された課題に適切に回答できる。

農山村フィールドワークⅠの成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 農山村での農業や暮らしを体験し、住民と交流することができる。
 2. 農山村に残された自然と共生した暮らしの文化や知恵など「持続可能な要素」を発掘・整理できる。
 3. 豊かで持続可能な農山村社会創出のために「持続可能な要素」を地域資源として活用できる。

農山村フィールドワーク II の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 2 項目で評定する。
1. 農山村に残された自然と共生した暮らしの文化や知恵など「持続可能な要素」を発掘・整理できる。
 2. 豊かで持続可能な農山村社会創出のために「持続可能な要素」を地域資源として活用し、それらを活かした活動や他者に伝える活動を行うことができる。

水土実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 実験の目的・意義および方法を、数式、図表、引用資料を用いてレポートで説明することができる。
 2. 実験の結果およびその考察を、数式、図表、引用資料を用いてレポートで説明することができる。
 3. 実験データを整理し、数値データから図表を作成してわかりやすく表現することができる。

環境物理学実験の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 物理学測定的基础について理解できる。
 2. 学習した内容に基づき、正しく計測できる。
 3. 課題の内容を適切に説明できる。

地域環境システム学演習の成績評価に関するガイドライン

- ① 本学の成績評価における素点による評価に基づく評定において、その評点と評価基準に関するガイドラインを以下のように定める。

秀（90 点以上）	基本的な目標を十分に達成したうえで、極めて優秀な成果を修めている
優（90 点未満から 80 点以上）	基本的な目標を十分に達成している
良（80 点未満から 70 点以上）	基本的な目標を達成している
可（70 点未満から 60 点以上）	基本的な目標を最低限達成している
不可（60 点未満）	基本的な目標を達成しておらず、再履修が必要である

- ② 各学科・各コースの評価結果（履修生と秀の数）を公表する。
- ③ 実験・実習・演習科目の成績評価は、以下の 3 項目で評定する。
1. 蒸発位の算定方法について説明できる。
 2. 地域環境や農業農村整備の現状について説明できる。
 3. 地域環境や農業農村整備の課題解決に向けた方法論について理解できる。